水星交響楽団
第38回定期演奏会

2007.8.18（土） 18:00開演
ミューザ川崎シンフォニーホール

響

ごあいさつ

本日はお忙しい中、私ども水星交響楽団の演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。当楽団は、1984年に一橋大学管弦楽団の若手OB・OGを中心に結成され、年に2回程度のペースで演奏会を行っております。

さて、今回の定期演奏会は「夏休みファミリーコンサート」と銘打っております。前回のマーラー・バルトークとは打って変わって、モーツァルト・ブラームスという皆さんにも親しみがある作曲家の作品をとりあげていることもありますが、コダーイを含めその曲想はいつかどこかで耳にしたことのある、懐かしい響きで統一されていると思われるからです。

「魔笛」は皆さんご存知の通りモーツァルトの最後のオペラですが、その舞台は完全に御伽噺の世界です（思想的背景には相当奥深いものがあるようですが）。

バルトークと同時期のハンガリーの作曲家であるコダーイの代表作である「ハーリ・ヤーノシュ」は、全編ホラ吹きオヤジのホラ話で構成されており、小学生のときどこかで聞いたようなひたすら楽しい旋律に満ち溢れています。

ブラームスの交響曲第４番は、このドイツを代表する大作曲家の最後の交響曲ですが、その最終楽章はパッサカリアという音楽的には歴史の古い形式をとり,クラシックの原点を垣間見ることができる一方で、タンゴを模したようなリズムがでてきたり、老成した作曲家にして擬古的な表層を持ちつつも、実は非常に革新的な多彩な内容になっております。

まだまだ暑い日は続きますが、夏の午後をゆったりとした気分でお過ごしいただけるよう、また、今日の演奏会が、皆さんの思い出に残るものにできるように、演奏会団員一同精一杯の演奏を致します。ごゆっくりお聴き下さい。

最後になりますが、常に変わらず情熱をもってご指導いただいた常任指揮者の齊藤先生、それから練習会場のご提供をはじめ様々な面でサポートいただいている一橋大学管弦楽団の皆様、そのほかご指導いただきました多くの皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。

水星交響楽団委員長　植松隆治

プログラム

W.A.Mozart
モーツァルト

The Magic Flute Overture
歌劇「魔笛」序曲

Kodaly Zoltan
コダーイ

Hary Janos Suite
組曲「ハーリ・ヤーノシュ」

Ⅰ. 序曲：おとぎ話がはじまる

Ⅱ. ウィーンの 音楽時計

Ⅲ. 歌

Ⅳ. 合戦とナポレオンの敗北

Ⅴ. 間奏曲

Ⅵ. 皇帝と廷臣の入場

～休 憩～

Johannes Brahms
ブラームス

Symphony No.4 In E Minor, Op.98
交響曲第4番 ホ短調 Op.98

Ⅰ. Allegro non troppo

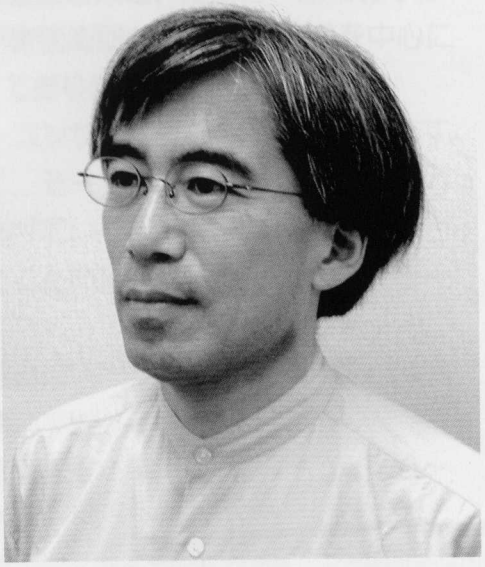
Ⅱ. Andante moderato

Ⅲ. Allegro biocoso

Ⅳ. Allegro energico e passionato

出演者紹介

齊藤　栄一(さいとう　えいいち)／指揮



京都大学にて音楽学を、国際基督教大学大学院にて美術史学を研究。この間、指揮法を尾高忠明、田中一嘉、円光寺雅彦の各氏に師事。1981年には、京都大学交響楽団と共に二週間に渡りドイツ、オーストリアにて演奏旅行を行い、ザルツブルグ音楽祭などにて指揮。1982年には関西二期会室内オペラ・シリーズ第9回公演、ブリテン作曲「ねじの回転」（関西初演）の副指揮者を務める。1984年より、水星交響楽団の常任指揮者に就任。1995年には東京文化会館で水星交響楽団、オルフ祝祭合唱団、佐多達枝バレエ団と、完全舞台形式「カルミナ・ブラーナ」、ラヴェルの舞踏交響曲「ダフニスとクロエ」全曲を指揮。最近では「カルミナ・ブラーナ」のバレエ公演で、神奈川フィル、東京シティ・フィルを指揮。昨年は、同曲を含むオルフの「トリオンフィ」3部作（4台のピアノと打楽器）を指揮した。

現在、明治学院大学文学部芸術学科教授。

崎村　潤子(さきむら　じゅんこ)／ツィンバロン

http://www.marimba.org/~junko/

国立音楽大学打楽器科卒業。マリンバを鈴木明子、草刈とも子、上野信一、岡田知之の各氏に師事。ツィンバロンを加納靖子氏に師事。 新日本フィル、東京都交響楽団など、多数のオーケストラと共演。

ツィンバロン（ツィンバロム）

ツィンバロム（ハンガリー語でCimbalom）は、ハンガリーを中心とする中欧・東欧地域で見られる大型の打弦楽器。多くのものは39コース以上の弦、4オクターブ以上の音域を持つ。チンバロン、ツィンバロンなどの表記も多く用いられる（ツィンバロムは日本打弦楽器協会推奨表記）。ロマの音楽で多く用いられる他、コダーイ、ストラヴィンスキー、クルターグ・ジェルジなどの近現代の作曲家にもしばしば用いられている。コダーイがオペラから編んだ組曲『ハーリ・ヤーノシュ』（第3曲、第5曲でソロ的に扱われる）が特に有名で、しばしば演奏される。 外形的には、彫刻を施されたクラシックな雰囲気のものが多いが、最近では装飾を一切廃した楽器なども作られるようになってきている。

プログラムノート

歌劇「魔笛」序曲　モーツァルト

私はハンカチ・・・・・
ではなく、ハニカミ・・・・・
でもなく、タミーノ王子。

怪物に襲われているところを
　夜の女王の侍女たちに助けられ、
女王の娘、パミーナの肖像を見せられ一目惚れ。
しかし、彼女は悪僧ザラストロに囚われている。
おぉ、愛しのパミーナ！
あぁ、憎きザラストロ！！
いざ、パミーナを救う冒険の旅へ！！！

しかしザラストロの神殿に着いてみれば、
僧侶が「悪いのは夜の女王だ」と言うじゃありませんか。
うーん、一体どっちが悪者なんでしょう？

それはともあれパミーナはどこに？
おもむろに女王からもらった『魔法の笛』を吹いてみれば、
パパゲーノの笛が呼応する。
近くにいるのか、パパゲーノ！
おーい、パパゲー・・・
あぁ、モノスタトス！！

捕らえられた私は、ザラストロの前へ。
ん？何だって？
パミーナとの愛を成就させたければ、試練の儀式を受けろ？
望むところだ。
パミーナのためならどんな試練だって耐えてみせましょう！！

「女の奸計」にだって耐えてみせましょう。
侍女たちが現れて、どんなに「悪いのはザラストロだ」と言われても、
心は揺さぶられません。
「沈黙の試練」にだって耐えてみせましょう。
愛しのパミーナを目の前にしても、完全に沈黙を貫きます。

『魔法の笛』を一吹きすれば、火と水の試練だって何のその。
夜の女王と侍女たちの軍勢も打ち砕かれ、
今や愛し合う二人の間には何の障害もありません。
昼が夜を退け、光が闇を打ち滅ぼした。
清められた人たちよ、ばんざい！！！
あぁ、パミーナ！！！　愛しのパミーナ！！！

おいらはパパゲーノ。
陽気で楽しい鳥刺しさ。
そんなおいらの望みは唯一つ、可愛い女房が欲しいだよ。

タミーノ王子に「あんたを助けたのはおいらだよ」と嘘をついたら、
侍女たちに口に鍵をかけられちまった。
ようやく外してもらえたと思ったら、
王子様にお供してザラストロのところへ行けだとさ。
あんな恐ろしいところになんて行きたかないのに・・・・

ザラストロの神殿に忍び込み、パミーナちゃんを見つけ出す。
だけど、奴隷頭のモノスタトスと鉢合わせ。
びっくらこいて、パミーナ連れて一目散。

王子様は一体どこに？
ん？王子様の笛の音？
　おいらはここだよ～、ピロピロリン♪♪
追いかけてくるモノスタトス。
こんな時こそ女王様からもらった「魔法の鈴」を。
みんな、とたんに陽気に踊り出す。

そこへ登場したのはザラストロ。
え？試練を受けろ？
いやなこったい、何でおいらが。
なぬ？可愛い女の子（パパゲーナ）を紹介してくれるって？
それだったら・・・いや、うーん・・・じゃあ、ちょっとだけ・・・

王子様にどやされて、
何とか一つ目の試練は切り抜けたけども・・・
何だ、この老婆は？
え？私と一緒にならないと地獄へ落ちる？
んな馬鹿なっ！？
この場は適当に誤魔化して、「はい」と言うしかありません。
すると何と！老婆が若くて可愛いパパゲーナに！

パパゲーナに逃げられた・・・・
おいらは一生独り者・・・・・
鬱だ、死のう・・・・・
え？　「魔法の鈴」を鳴らしてみろって？
チロチロリン♪♪
あぁ、パパゲーナ！！
パパパパパパパパゲーナ！！！
パパパパパパパパゲーノ！！！
パパパパパパパパパパパパパパパ・・・・・・・・・・・

（ZAWA）

組曲「ハーリ・ヤーノシュ」　コダーイ

ついに「ハーリ・ヤーノシュ」を演奏できる日がやってきました。え？「ハーリ・ヤーノシュ」って何？それよりコダーイって誰？あまりなじみのない名前かもしれません。オケメンですら知らない人がいたのですから、知らなくても気にすることはありません。コダーイ・ゾルターン（ハンガリーでは日本と同様、姓・名の順に表記します）はバルトークと並んでハンガリーの代表的な作曲家です。その彼の代表的な作品が、本日演奏する組曲「ハーリ・ヤーノシュ」なのです。

「ハーリ・ヤーノシュ」は実在の人物で、その波乱万丈の生涯は物語として親しまれていました。そんなハンガリーの人々になじみの深い話を題材に、コダーイは数々のハンガリー民謡を取り入れた歌劇を作りました。
そう、「ハーリ・ヤーノシュ」はもともとオペラだったのです。コダーイは当時外国の音楽に駆逐されそうになっていたハンガリーの民謡を残したいと考えて、このオペラを作ったのですが、音楽も明確に書き分けていて、宮廷人には外国の旋律を歌わせ、ハンガリーのヒーローたちにはハンガリーの旋律を歌わせたのだとか。わかりやすいですね。今でもオペラ版が上演される機会があるのかは知りませんが、一度見てみたいものです。

「ハーリ・ヤーノシュ」は次のような物語です。
退役軍人のハーリ・ヤーノシュじいさんが村の居酒屋で、例によって若い頃の冒険談を話すプロローグに始まり、次のような四つの冒険が続きます。

国境警備兵を務めていた若いハーリは、通りかかったオーストリアの皇女マリー・ルイーズの難儀を助けたことから姫に見初められ、いいなずけのエルジェともどもウィーンに同行することになる（第一の冒険）。

ところが、皇帝夫妻の信任も得て次々と出世するハーリを旧臣たちはねたみ、彼を戦場へ追いやるためにナポレオンとの間に戦争を始め、ハーリは軍の司令官に任命されて、堂々と出陣していく（第二の冒険）。

そして、戦場でも大活躍。ただ一人ナポレオン軍に攻め込むと、ナポレオンはたちまちへなへなと降参してしまう。そのため、ナポレオンの妃であるマリー・ルイーズ姫は、臆病な夫に愛想を尽かし、ハーリとの結婚を決意する（第三の冒険）。

ウィーンの宮殿では華やかに二人の結婚式が行われ、皇帝はハーリに国の半分を与えると宣言する。しかし自由を愛するハーリは故郷のハンガリーに帰ることを望み、いいなづけのエルジェと共に祖国へと旅立っていく（第四の冒険）。

さて、「ハーリ・ヤーノシュ」では民族楽器「ツィンバロン」が登場します。打弦楽器といわれる仲間のツィンバロンは、台形の箱の底辺に平行に張られたたくさんの弦をばちでたたいて音を鳴らす楽器です。演奏する様子は木琴みたい？ でも楽器はピアノの中身みたいな不思議な楽器です。私事ですが、ハンガリーを旅行した際、街中で見かける大道芸は当然ツィンバロンでしたし、民族音楽のコンサートではほとんどツィンバロンとその他大勢といった風情の演奏を聴きました。ハンガリー民族の文化に深く根づいている楽器なのだなあと思わされる体験でした。哀愁漂う不思議な音色が魅力的なツィンバロンにどうぞご注目ください。

序曲「物語は始まる」

大きなくしゃみの音で始まりますが、ハンガリーには、聞いていてくしゃみが出たらその話は本当だという言い伝えがあるそうです。

第二曲「ウィーンの音楽時計」

大きな仕掛け時計をほうふつとさせる華やかな音楽。かつてどこかの局の天気予報で使われていたので聞き覚えのある方もいらっしゃるのでは？

第三曲「歌」

歌劇の中で歌われるもっとも美しいハンガリー民謡を主題にとっています。ツィンバロン登場、お聞き逃しなく。

第四曲 「戦争とナポレオンの敗北」

へっぴり腰のナポレオンとその軍隊が滑稽に描かれています。

第五曲「間奏曲」

ツィンバロンの独壇場です。妙技をお楽しみください。

第六曲「皇帝と廷臣たちの入場」

もったいぶった彼らの入場行進がハーリの想像の中でいつの間にか道化芝居の踊りに変わっています。

コダーイが保存に熱心だったハンガリーの旋律とはいかなるものか、曲を聴いていると大体わかると思います。ちょっと物悲しい、だけど一度聞いたら忘れられない印象的な旋律。一時の間、古きよきハンガリーへタイムトリップしてみませんか。

＜参考文献＞
「クラシック名曲ガイド②管弦楽曲」音楽之友社
「Zoltan Kodaly, His Life and Work 」ラースロー・エウセ著
全音出版
「楽器」マール社

（うさこ）

交響曲第4番 ホ短調 Op.98　ブラームス

ヨハネス・ブラームス（1833－1897）52歳のときに完成した交響曲第4番は、曲の構成やメロディから古めかしさや憂愁味、そして内に秘めた情熱が強く感じられて、晩年のブラームスの心情がよく表れた大人向けの作品であるとしばしば評されます。

「交響曲」とはオーケストラのためにつくられた大編成でやや長めな曲のことで、速さや感じが異なる4つの曲（＝楽章）から出来ているのが一般的です。ブラームス4番の場合は楽章ごとで次のような特徴があります。

第1楽章　アレグロ・ノン・トロッポ
（あまり速すぎずに）

この曲全体を象徴するような切ない弦楽器のメロディで曲が始まり、3連符のリズミカルな伴奏や伸びやかな旋律などがあとにつづいて発展していきます。

第2楽章　アンダンテ・モデラート
（ゆるやかに、ほどよく快活に）

第1楽章が激情をもって閉じたあと、一転して管楽器の穏やかなメロディが流れます。他の交響曲では見かけない「フリギア調」という中世の音の並び方を意識して作曲されていて、荘厳な響きのする美しい楽章です。

第3楽章　アレグロ・ジョコーソ
（陽気に、おどけて）

この交響曲中で唯一、元気で楽しい感情にあふれている場面です。ここではじめて登場する低音の管楽器や打楽器があって、曲の色彩感を増しています。

第4楽章　アレグロ・エネルジコ・エ・パッショナート
（力強く情熱的に）

低音楽器が同じような旋律を繰り返す一方で、さまざまにアレンジされたメロディが寄り添うという形式を取る楽章です。命題どおりただひたすらに情熱的なだけでなくて、途中に管楽器の穏やかなソロや合奏場面もあり、大切な聴かせどころになっています。

各楽章にかかる演奏時間は10分前後で、演奏終了までおよそ40分くらいです。コンサートに慣れないうちは長く感じる時間帯もありますが、呼吸を意識的に深くして、曲の感じから風景や思い出などいろんなことを想像したり考えたりしながら聴いてみてください。

さてその一環として、曲の背景（？）を少しご紹介します。開演前に暇な方はご一読を。

ブラームスの4番は愛好者が多くて、アマチュア楽団でも演奏することが多い曲のひとつです。この紹介を書かせていただいている私も、楽器をはじめて11年ちょっとでブラームス4番演奏会への出演はこれで3回目になりました。

1回目は大学4年生に進級した春で、パートリーダーの役目を後輩に譲る直前の演奏会でした。私や同級生たちにとってそれは学生時代の集大成といってよく、演奏会後の打ち上げ会場ではそれまでを思い出して泣きだす同級生の女の子もいたものです。その横でいつも通り無神経にビール瓶を空にし続ける私のパートが際立っていて、雰囲気こわして悪かったなと今さら反省もしますが、それもひとつの美しい思い出ということでもう勘弁よ。

その後しばらくあって大学卒業が近くなって、卒業したら水響に入らせてもらって、慣れた土地でオーケストラを続けるのもいいなあと思いはじめましたが、そこは社会人にとって必ずしも思い通りにならないことのひとつ。就職と同時に聞いたことがない町に配属されて、東京を離れることになったのでした。あーあ。何よそれ。

でもこりゃしょうがねえわと腹をくくって住民票を移したその町は、店らしい店も少なくて、コンビニより中古車屋の方が多くて、天気がこれまた厳しくて、でも小さな市民オーケストラがひとつあって、楽器を続けることができました。そして、社会人というよりたぶんその土地独特の雰囲気だったのでしょうが、「ゆったり一生懸命に」活動するスタイルがとっても心地よくて、いやいや田舎も捨てたもんじゃない。住めば都っていうのはいい言葉ですよ。

そしてそこで仲間に入れてもらって2年後にブラームス4番と再会しました。学生時代に比べて落ちきった自分の腕前と田舎楽団の下手さにもう参ってしまって、青春が汚れるううううとへこたれましたが、一方で心の余裕だけは増えていていろいろ遊びました。奏法をいろいろ試したり、他人のパートをよく聴いたり（＝あら探し？）、下手は下手でも自分史上2回目のブラームス4番演奏会は学生時代のものとはまるで違っていたように思っています。

そしてさらにしばらくあって2年後、なかなか時期が来ないなと思っていたら一転して東京に戻ることになって、オーケストラ就職活動のためここ水星交響楽団を久しぶりに訪ねてみるとまた4番に会って、こいつとは何か縁があるんかなと思いつつ今日の演奏会にいたっています。

水響には学生のころに何回か賛助出演していたこともあって、もう練習場所に向かうところからして懐かしさうれしさで腹いっぱい。あのときのお兄さんお姉さんとまた一緒に弾ける。団の行きつけの居酒屋もまだしぶとく営業してた。…でもやっぱりかつてとは心の内外でちょっとずつ違うものがあって、懐かしさと新鮮さの混ざった気分で3度目のブラームスの舞台に立ってます。

気持ちにクールな腕前が伴ってくれればいいのですが。多少のスタンドプレーはご愛嬌、アンケートにはやさしい目で見た評価コメントお願いします。

とまあこの調子で、演奏者ごとで多少なりともいろいろ気持ちが入った演奏会なんだろうと想像しつつ、お楽しみください。

（リターンズ27歳児）

水星交響楽団

◆常任指揮者
齊藤　栄一

◆コンサートマスター
米嶋　龍昌

◆トレーナー
小田　透
小林　幸人
佐藤　雄一
富平　恭平

◆第一ヴァイオリン
石川　貴隆
太田　文二
岡田　紳太郎
河田　健
黒川　夏実
黒崎　ちづる
鈴木　尚志
鈴木　牧
垂水　志帆
豊田　由起
松崎　亜紀子
松本　祥世
山田　健太

◆第二ヴァイオリン
岡田　聖夏
河上　淳一郎
後藤　由布
小林　美保子
佐々木　晶子
篠木　悠介
鈴木　真由子
鈴木　美沙
祐成　秀樹
滝澤　蘭
土屋　和隆
野口　直美
野村　国康
前田　啓

◆ヴィオラ
有井　晶
井上　拓
川俣　英男
木村　納
金　純子
小松　聡
田北　佐和子
野口　雄裕
林　昌弘
帆苅　敏弘
堀切　由紀子
三上　さやか
八巻　紳太郎

◆チェロ
今村　文子
斎藤　菜々見
橘　温子
東郷　丞
中山　佐知子
日吉　実緒
能岡　雅人
鈴木　皇太郎

◆コントラバス
阿部　洋介
大西　功
刈田　淳司
北畠　麻由
高橋　真弓
福原　祥公
本多　美佐子

◆フルート
川崎　裕恵
中澤　高師
西村　かよ子
本田　洋二
横田　慎吾

◆オーボエ
進藤　彩
長谷川　実里
野口　秀樹

◆クラリネット
大山　泰広
西村　伸吾
福澤　佳子
横地　篤志

◆サキソフォン
江口　紗苗

◆ファゴット
赤羽　由衣
越島　康太郎
冨井　一夫

◆ホルン
伊集院　正宗
岡本　真哉
倉矢　忠和
桑名　久美
小松　泰三
島　啓
山形　尚世

◆トランペット
淺田　健二
家田　恭介
金子　恭江
桜井　新
七五三　直人
田玉　詩織

◆トロンボーン
櫻井　統
佐々木　英王
佐藤　幸宏
髙橋　康昭
福澤　親

◆チューバ
植松　隆治

◆パーカッション
梶浦　未紀
岸　敦子
高橋　淳
椿　康太郎
山本　勲
吉村　恵一
渡辺　麻子

◆ピアノ
井上　友美

◆チェレスタ
横山　さやか

今後の演奏会予定

第39回定期演奏会

2008.4.26（土）　　ミューザ川崎シンフォニーホール

ラヴェル　高雅で感傷的なワルツ
イベール　交響組曲「寄港地」
ベルリオーズ　幻想交響曲「ある芸術家の生涯の挿話」

第40回定期演奏会

2008.11.24（日）　すみだトリフォニーホール

ドヴォルザーク　交響曲第9番「新世界より」
ストラヴィンスキー　バレエ音楽「春の祭典」

～編集後記～

兄　今日の演奏会のイチオシは？
妹「定期演奏会」なのに「ファミリーコンサート」、「ファミリーコンサート」なのに夜公演、とか・・・。
兄　・・・(-_-;)。大きいツィンバロンとかあるじゃろがい！
妹　(°.°)あ、えとえと、フルートといえば「美しいおねーさん」イメージですが、今回は「あれ？持ってる楽器が違うんじゃ？！」みたいなおじさん･･･あいやいや、たくますぃーおにーさんオンパレード！ってのは？？
兄　わしとしては美しいおねーさんが見たいがのう。。。
妹　アニーったら、舞台でかわいいピチピチギャル（死語？）に囲まれてるくせに。
兄　いやいやいやいや。バイオリン（注；女性が多い）で良かったっす！
妹　バイオリンといえばさ、あの「第一」「第二」って呼び名が誤解を招いている、って話になってね、次から役割にちなんだ呼び名に変えようかと思うんだけど・・・。
兄　確かに、まるで上下関係がありそうじゃな。で、どんな？
妹「うわついたバイオリン（旧第一）」と「重要なバイオリン（旧第二）」。
兄　わし、重要！
妹　イチオシは決まったみたいねっ(^_-)-☆

《は○だ兄妹社　祐、祥＆美保》

歌